



新年明けまして おめでとうございます

年頭のご挨拶

2016年(平成28年)の年頭に当たり思うこと

盡誠会 宮本病院院長 宮本二郎



昨年の平成27年は、当院の設立60周年に当たり、無事一年間を過ごすことができましたことを、まず感謝いたします。人間でいえば還暦に当たり、いろいろ不都合なことが出てくる年回りになったことは否めませんが、逆に今まで培ってきたシステムが実を結びつつあることも事実です。そうしたことを踏まえて、今年の当院の新たな目標として「**人にやさしさの手を差し伸べる**」を掲げたいと思います。

スマホ世代は、ツイッター、ライン、FACE BOOKなどのSNSの画面を通じたネットコミュニケーションが得意でも、face-to-faceのリアルコミュニケーションは若干苦手なことが多いようです。しかし、いくらICT化が進んでも、人が相手のこの業界では「直接話すのは苦手」では済まされません。

大学教育の過当競争から、盛んにグローバル化が言われ、海外留学をうたい文句に学生を募集している学校もあります。しかし今後の本当のスキルは、立つ位置のしっかりした、コミュニケーション力を兼ね備えたイノベーション力(困難に立ち向かう新発想と言い換えてもいいと思います)だと思います。宮本看護専門学校でも、まず正しい日本語、そしてやさしさを備えた人格形成を目指した教育を実践しています。

患者様から信頼され、又は、この人なら心配ない人だと思われる行動、発言に努めるように、5S活動を展開しています。整理、整頓、清掃はやって当たり前の風土になってきました。安倍総理の一億総参加の活動ではありませんが、それぞれの部署で思ったことが言え、そしてやってみたいことを自由に提案できる風土を、当院では持ち続けたいと思います。

新しい年を迎え、人による事件、事故そして、自然の猛威による悲惨な災害が何とか少ない年であるように祈りながら、年頭のあいさつに代えたいと思います。今年もよろしくご指導のほどお願いいたします。

医療安全管理対策委員会

当院には、患者様に安全かつ安心な医療・看護を提供できるように、院長を含む各部署の責任者で構成されている医療安全管理対策委員会があります。医療安全管理対策委員会では、様々な取り組みを行っています。患者様と直接関わる看護部教育に特に力を注いでいます。その教育の一つとして、平成二十七年の医療安全週間に合わせて、各病棟でモデル人形を使用し、緊急時を想定した訓練を実施致しました。これからも、患者様の安全を第一に考えた委員会活動を行っていききたいと思います。

委員長 藤原里美



訓練の内容

- ・胸骨圧迫(心臓マッサージ)
- ・人工呼吸(アンビューマスク使用)
- ・AED(自動体外式除細動機)
- ・気管内挿管の介助

地域行事「稲敷市文化祭・かわちフェスタ」

宮本病院では、昨年より稲敷市の地域の方々に、もっと当院のことを知ってもらうことを目的として、稲敷市で行われる地域行事へ参加しております。今年も宮本病院を代表して、看護部とリハビリテーション科の二部署が合同で、十月三十一日「稲敷市文化祭」、十一月一日「かわちフェスタ」の二つの地域の行事に参加させていただきました。

当日は、「健康相談会」を看護部とリハビリテーション科で行わせて頂きました。看護部では、血圧・体脂肪測定を行い、リハビリテーション科では体力測定、簡易的な認知症検査等を行いました。

「稲敷市文化祭」「かわちフェスタ」に参加した計二日間で、約二百五十名の来場者の皆様に、当院の健康教室に足を運んで頂きました。

* 来場して頂いた方々からの感想

- 「整形外科・リハビリ・人間ドックがあるのを知らなかった。」
- 「精神科だけの病院と思っていたけど、色々診療科があるんだね。」
- 「通院が出来ないと思っていたけど、送迎もあるんだね。」
- 「今度リハビリに通います。」
- 「人間ドックを予約したい。」

といったお声を頂くことが出来ました。

今回の健康相談会で頂いた様々なご意見やご要望を参考にし、当院がより地域に根差した病院となるように、病院として今後も努力していききたいと思います。当院では、来降もこのような地域行事があれば、積極的に参加していきたく考えております。

リハビリテーション科 笹沼 航

